



アフガニスタンの首都カブールで、ナカムラ・ムスリムヤールちゃん(中央)をあやす父サミウラさんと子どもたち=22日 (共同)

アフガン市民、中村医師にあやかり



中村哲さん

【カブール共同】アフガニスタンの首都カブールの市民が、昨年12月4日に回国で殺害された福岡市の非政府組織(NGO)「ペシヤワール会」現地代表の医師中村哲さんにちなんで、事件2日後に生まれた男の赤ちゃんを「ナカムラ・ムスリムヤール」と名付

赤ちゃんナカムラと命名

事件2日後誕生 父「人々に尽くす息子に」

けた。命名した父サミウラさん(39)は「人々に尽くす息子になつてほしいから」と理由を述べた。

サミウラさんは中村さんがかんがい事業を手掛けた東部クナール州の出身。事件を知つて「悲しくて悔しくてたまらなかつた」と振り返り、息子が生まれてすぐに「中村さんの功績を忘れてはならない」と命名を決意した。

アフガンでは国教のイスラム教にまつわる名前を付けるのが一般的だが、家族から反発はなかつたという。日本語が分かる知人に相談し「中村」に「イスラム教に反する意味はない」との説明も受けた。ただ、イスラム教徒かどうか判別できないため「イスラム教徒の隣人」を意味するムスリムヤールを付け加えた。

「国を挙げてイスラム教徒のために働いた中村さんを守るべきだった」と悔やむサミウラさん。ナカムラちゃんには「名前負けせず、英雄の信念を受け継いでほしい」と期待した。

2020.1.25(土) 神戸新聞分

早いものですね。日本人の誇りがこの世を去ってから半年以上が経ちました。

失ったものが別の形で繋っていく。まさにその人の道はその人と共にもあるし、その人の後についてきた人達によって、その人の前に拡がっていきいます。そんな人にはなかなかなれないが、私の人達とも出会える機会も逃がしたくないですね。